



発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町2-7-5 (砂防会館内)  
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664

編集・発行人 下川 順  
印刷所 株式会社 白橋印刷所

会員(定価1部100円) その他一般(定価1部150円)  
毎月1回15日発行

## 平成22年6月～7月 梅雨前線豪雨により被災された方々に 心からお見舞い申し上げます。



広島県庄原市川北地区の被災状況

### 目次

平成22年 梅雨前線豪雨による災害	国土交通省河川局防災課	2
平成22年度「森と湖に親しむ旬間」をかえりみて	国土交通省河川局河川環境課流水管理室	6

# 平成22年 梅雨前線豪雨による災害

国土交通省河川局防災課

## 1. はじめに

平成22年の6月中旬から7月中旬にかけて、梅雨前線が九州から本州付近に停滞し、西日本各地で断続的に激しい雨が降り、河川の増水や土砂崩れなどで大きな被害が生じた。以下では、この梅雨前線豪雨について、大雨の概要、被害状況、並びに国土交通省の対応を述べる。

ここで、気象概況等は気象庁発表資料に、死者・被害家屋数等については消防庁発表資料に、また公共土木施設被害等については国土交通省とりまとめ資料に基づく。いずれも速報であり、今後変更されることがあることに注意願いたい。

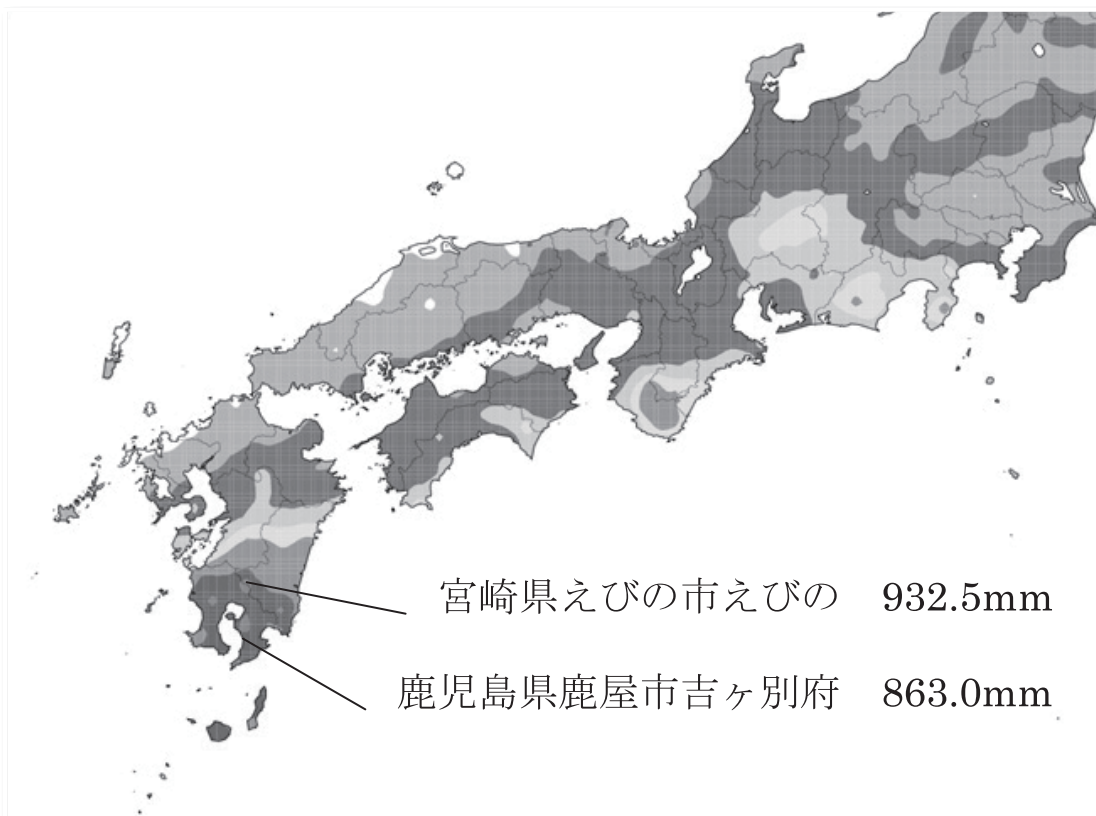
## 2. 大雨の概要

6月11日から23日にかけて、梅雨前線は九州から本州の南岸に停滞し、九州南部を中心に大雨となった。

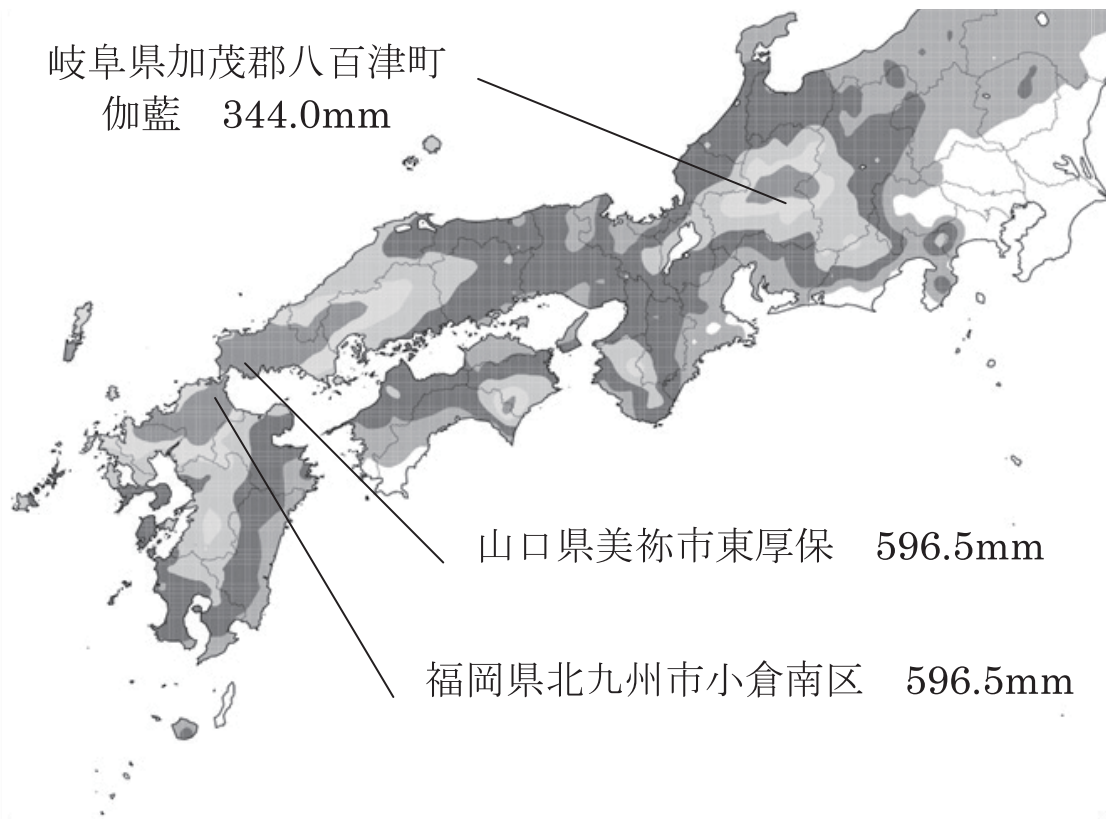
11日から23日までの総雨量は、宮崎県えびの市えびので932.5mm、鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府で863mmとなったほか、鹿児島県肝属郡南大隅町で1時間の降水量が116mmを記録した(図一)。

また、7月2日から9日にかけて、梅雨前線は九州南部から本州の南岸に停滞し、前線に近い九州南部で大雨となったほか各地で短時間の大雨となった。2日から9日までの総雨量は、宮崎県えびの市えびので551.5mmとなったほか、東京でも練馬区で1時間の降水量が67mmを記録した。

さらに、7月10日から16日にかけて、梅雨前線は日本海から東北地方へと徐々に北上し、東海から九州にかけて広い範囲で大雨となった。10日から16日までの総雨量は、山口県美祿市東厚保や福岡県北九州市小倉南区で596.5mm、岐阜県加茂郡八百津町で344mmとなったほか、広島県庄原市庄原では1時間



図一 6月11日～23日の期間降水量分布  
(気象庁発表資料)



図一2 7月10日～16日の期間降水量分布  
(気象庁発表資料)

雨量が64mmを記録した(図一2)。

この梅雨前線豪雨により鹿児島県熊毛郡南種子島町等で1時間降水量および24時間降水量で観測史上最高を更新した。

### 3. 被害状況

この豪雨によって、直轄河川においては筑後川水系城原川で計画高水位を超過したほか、石川県の梯川、島根県の高津川、広島県の太田川、福岡県の遠賀川、佐賀県の嘉瀬川、六角川では氾濫危険水位を超過した。

また、都道府県管理河川では東京都の荒川水系石神井川、岐阜県の本曾川水系可児川、広島県の江の川水系北川、大津恵川、山口県の厚狭川水系厚狭川、木屋川水系木屋川、福岡県の紫川水系紫川で浸水被害が発生した。

さらに、西日本を中心に6月17日以降、全国で土石流等が112件、地すべりが18件、がけ崩れが409件の土砂災害が発生した。

この河川の増水や土砂災害による人的被害は、広島県の死者5名をはじめ全国で死者15名、行方不明者5名、家屋被害は全壊37棟、半壊45棟、床上浸水

1,848棟、床下浸水5,367棟に上った。

### 4. 国土交通省の対応

7月7日、土石流が発生した鹿児島県南大隅町に国土技術政策総合研究所および独土木研究所から土砂災害の専門家を派遣し、現地調査を行った。

7月8日から9日には、大雨により公共土木施設に大きな被害のあった宮崎県都城市および鹿児島県曾於市、霧島市等に国土交通省河川局および九州地方整備局の専門家を派遣し、災害緊急調査を実施した(写真一1, 2, 3, 4)。

7月16日には、浸水被害のあった岐阜県可児市の可児川および山口県山陽小野田市に国土交通省河川局の専門家を派遣し、災害緊急調査を実施した(写真一5, 6)。

7月17日には、7月16日に発生した広島県庄原市の豪雨災害に関して広島県知事から中国地方整備局長に緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の派遣要請があり、国土交通本省、国土技術政策総合研究所、(独土木研究所および中国地方整備局から27日までの11日間にのべ69名・日のTEC-FORCE隊を派遣した。TEC-FORCE隊は、広島県庄原市において現地



写真一 宮崎県都城市1級河川丸谷川の被災状況



写真一四 鹿児島県霧島市主要地方道  
都城隼人線の被災状況



写真一 二 宮崎県都城市1級河川庄内川の被災状況



写真一五 岐阜県可児市可児川の被災状況



写真一 三 鹿児島県曾於市1級河川溝之口川・  
庄内川の被災状況



写真一六 山口県山陽小野田市厚狭川の被災状況

の被災状況調査の支援、今後の土砂災害の危険性に関する技術的判断、災害復旧に向けての技術的助言等を行い、随時、広島県および庄原市に調査結果の報告を行った(写真一7, 8, 9, 10)。

7月18日には、津川国土交通大臣政務官が浸水被害のあった福岡県北九州市の紫川や直方市の遠賀川の現地視察を行った。

7月19日には、がけ崩れが発生した島根県松江市

に国土技術政策総合研究所の専門家を派遣し、現地調査を行った。

また、今回の豪雨災害を受け、前原国土交通大臣が、8月8日には豪雨災害のあった広島県庄原市へ現地視察を行い、8月18日には土石流被害のあった鹿児島県南大隅町へ現地視察を行った(写真一11、12)。

そのほか、国土交通省では、今回の一連の梅雨前



写真一七 広島県庄原市の被災状況



写真一〇 広島県庄原市川北地区の被災状況



写真一八 広島県庄原市大戸地区の被災状況



写真一一 前原大臣現地視察の様子（広島県庄原市）



写真一九 広島県庄原市篠堂地区の被災状況



写真一二 前原大臣現地視察の様子（鹿児島県南大隅町）

線豪雨災害における自治体への支援として、福岡県等3県、庄原市等8市町に対してリエゾン（連絡調整要員）をのべ22名・日派遣し、現地の被災状況の把握や自治体の要望の聴取を行った。

さらに、被災地の状況を把握するため、国土交通省の災害対策用ヘリコプター4台（あおぞら号、まんなか号、愛らんど号、はるかぜ号）により、鹿児島県、宮崎県、福岡県、山口県、岐阜県等10県に計11

回出動して被災状況調査を実施し、関係地方公共団体等に情報提供を行ったほか、被災自治体の要請を受けて排水ポンプ車、照明車、遠隔操縦機械等の災害対策用機械計52台を派遣するなど、被災地の早期災害復旧や二次災害の防止のための支援を行った。

## 5. おわりに

国土交通省としては、災害緊急調査を積極的に実

施し、災害査定官等が被災した公共土木施設の早期復旧のために施設の応急措置や復旧方針の樹立のために助言を行ってきたところである。平成22年4月からは、災害復旧事業および改良復旧事業の各種手続きの簡素化を実施し、災害査定、改良復旧事業要望、設計変更協議の各段階での省力化を推し進めることで、さらなる早期復旧を目指している。

また、台風期に向けた水害・土砂災害への備えとして、災害から身を守るための事前情報、いざ災害

が切迫、または発生した場合における一般並びに地方自治体等への具体的な支援メニューを国土交通省のホームページにわかりやすくとりまとめたので参照されたい。

台風期に向けた水害・土砂災害への備え：国土交通省トップページ＞河川or災害情報＞トピックス (URL：<http://www.mlit.go.jp/saigai/taifuukinimuketasonae.html>)

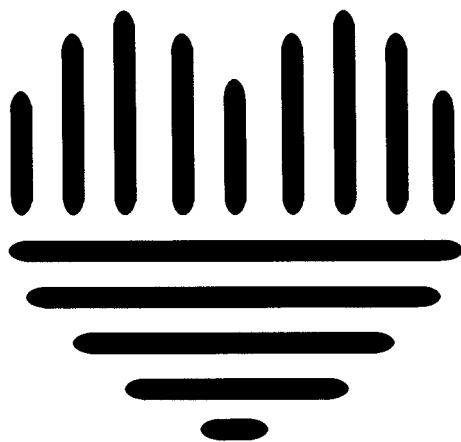
## 平成22年度「森と湖に親しむ旬間」実施状況

国土交通省河川局河川環境課流水管理室

### ・呼びかけ統一標語

ふれあいさわやか 森と湖  
 もう一つ ふるさと見つけた 森と湖  
 さわやかな 心のオアシス 森と湖

### ・統一シンボルマーク



国土交通省、林野庁、都道府県、市町村は、人々に森や湖に親しむ機会を提供することにより、心身をリフレッシュし、明日への活力を養っていただくとともに、そうした機会をとおして森林やダム湖のもっている自然豊かな空間や社会生活に果たしている役割などを理解していただくことを目的として、毎年7月21日から31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。

本年度で24回目を迎え、全国各地のダムやその周辺の森林を会場として、ダム見学会、水辺や森林などの自然とふれあい親しむ教室、森や湖について理

解を深めることができるレクリエーション等の行事が開催され、多くの方の来訪がありました。

この中のいくつかの実施状況について紹介します。

### ○豊平峡ダム（所在地：北海道）「森と湖に親しむ旬間」関連行事

豊平峡ダムでは、ダムを間近で見いただく「豊平峡ダム見学デー」を7月27日と29日の2日間開催し、368人の来場者がありました。

見学内容は、管理支所でダムの概要説明のあと地下通路を通り、エレベーターに乗って、キャットウォークを歩いてバルブ室まで行き、ダムからの放水（観光放水）を間近で見いただくというものです。

バルブからの豪快な水を間近に見て、見学者からは「大変感動しました」や「来年も絶対見に来たい」等、喜びの声が多数聞かれました。



キャットウォークを歩く見学者



放水を間近でながめる見学者

### ○四十四田ダム（所在地：岩手県）「森と湖に親しむ旬間」関連行事

「盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」は、盛岡の夏を爽快に彩るイベントであり、毎年2,000人を超える参加者が集う人気の高い行事です。

昨年の前回大会では、「ギネス世界記録」に認定

され、文字通り「世界一の大会」となりました。スタート地点は四十四田ダム直下となっており、ダムサイトが最も熱く賑わいを見せ、北上川を壮大に下る姿は圧巻です。今年は前日までの降雨により通常より水量が多い中、約1,800人が下り、大いに賑わいました。

### ○藤原ダム・奈良俣ダム（所在地：群馬県）「森と湖に親しむ旬間」関連行事

利根川ダム統管理事務所における「森と湖に親しむ旬間イベント」では、藤原ダム、奈良俣ダムの見学のほか、森林管理署による奥利根水源の森の案内などを盛り込んだ奥利根水源体験学習を7月27日に開催しました。普段は見られないダムの監査廊の見学や水源の森での工作教室などを実施し、水の大切さやダムや発電所、森林の役割を理解していただきました。43人の親子連れの方などが群馬県内外から来場され、ダムを始めとする奥利根地域の水源を身近に感じる1日を過ごしていただきました。



出発前にダムサイトでくつろぐ参加者



藤原ダムの案内



コース最大の難所「北フォール」を果敢に下る選手たち



奥利根水源の森

○野村ダム(所在地：愛媛県)「森と湖に親しむ旬間」関連行事

「野村ダム森と湖に親しむ旬間イベント」では、ダムに流れ込む水の水質を知り、河川に親しむことを目的として、小学生を対象とした水生生物調査を開催しました。

当日は雲一つない快晴となり、気温が35度を超える猛暑でありましたが、約40名の子供たちが参加しました。

なお、今年は梅雨期による降雨が多かった影響により川の水量が多かったため、例年と比べ生物が少なかったのですが、参加した小学生たちからは、「川の中にいろいろな生物がいて驚いた」、「水生生物から水質を知ることができることを初めて知った」、「川の水を汚してはいけないと思った」、「また調査してみたい」との感想がありました。



水生生物採取状況



水生生物同定作業

○耶馬溪ダム(所在地：大分県)「森と湖に親しむ旬間」関連行事

「やばけい湖畔祭り」では、ダムの役割や効果などを体感しながら理解していただけるよう、ダム施設を部分開放し①ダムの模型を使ったダム機能の説明、②ダムの操作室やダム堤内の見学、③ダム湖水質調査を行いました。また、ダム湖周辺では、地元祭りの実行委員会主催によるカブトムシ狩りや太鼓の演奏、花火大会などの催しがあり、ダム湖面では水上スポーツ関係団体の協力により子ども水上スポーツ体験などが行われました。今回の湖畔まつりでは、夜の花火まで含め約3,500人が訪れ、地域の活性化につながる湖畔まつりとなり、地域と連携し耶馬溪ダムが活気に満ちあるふれる1日でした。

国土交通省では、今後とも林野庁等関係機関と連携しながら、全国の各地でこうしたダムと森林の役割を人々に広く理解をしていただくための取り組みを推進・充実するとともに、限られた水資源の有効活用や水源地の活性化の推進を図ることとしております。



ダム機能の説明



水上スポーツ体験